

銀ブラの意味？

2013年8月2日
カフェパウリスタ
のHPより

「銀ブラ」の意味をご存知ですか？
銀ブラの語源は、銀座をブラブラすることではありません。

正解は「銀座でブラジルコーヒーを飲む」です。

その語源は「銀座でブラジルコーヒーを飲む」ということらしい。
大正時代、慶応の学生が言い始めたそうだ。本当か？ さらに
調べを進めると、その語源となったブラジルコーヒーを出す店が
現在も銀座にある。カフェパウリスタだ。

「銀ブラ」の語源となったカフェパウリスタは銀座八丁目、中央
通り沿いにある。

『日本で最初の喫茶店「ブラジル移民の父」がはじめた—カ
フェパウリスタ物語』（文園社）、著者はカフェパウリスタの
先代社長である長谷川泰三氏である。その本によると、

「銀ブラ」の語源は銀座でブラジル珈琲!?

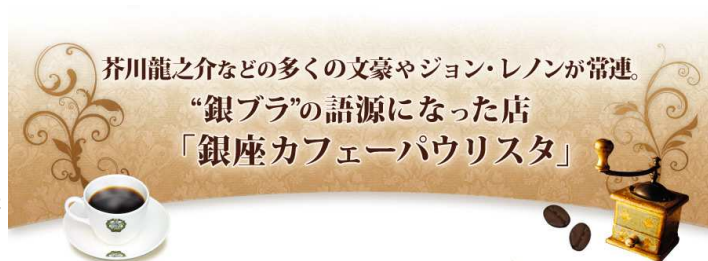
という見出しがあった。その章を読んでみると画家の水島爾保
布(みずしまにおう)が書いた『新東京繁昌記』、評論家の安藤
更生が書いた『銀座細見』から「銀ブラ」という言葉が大正時代、
慶応の学生によって生み出されたという記述があることを紹介し
ている。さらに作家の小島政二郎が書いた『甘肌』より、その造
語が小島の同級生である成毛五十六という人物によって命名さ
れたとあるそうだ。なるほど、これだけの文献資料があるなら、
納得せざるを得ない。

ジョン・レノンがコーヒーを3杯おかわりした

カフェパウリスタの創業は1909年(明治42年)。今年で104年
目ということになるわけだが、その間に多くの著名人がこの店に
通っている。かつて、カフェパウリスタは今の交詢社(銀座六
丁目)の向かいあたりにあった。大正時代には菊池寛、正宗白
鳥、芥川龍之介、久保田万太郎、広津和郎、佐藤春夫、獅子文
六といった文学者が多く出入りしていたらしい。その関係で、昔
を懐かしむ人たちがこの店を訪れるのも少なくないそうだ。

「最近ではジョン・レノンさんでしょうかね」と言う。えっ、あのジ
ョン・レノンもここに来たのか。思わず、どの席に座ったんですか
と聞いてしまった。真ん中のあの間仕切りがある手前だと言う。
ジョン・レノンはオノ・ヨーコとともにここに通ったらしい。時には
ブルーマウンテンを3杯おかわりしたこともあるそうだ。銀ブラか
らジョン・レノンまで歴史のある店なのだ。

ちなみにこの店でコーヒーを飲むと「銀ブラ証明書」をくれる。ス
タンプカードになっていて、10回スタンプを押してもらえると、コー
ヒー一杯が無料となるものだ。さあ、銀ブラに出かけてみようで
はないか。



「銀座カフェパウリスタにブラジルコーヒーを飲みに行く」
ということから「銀ブラ」という言葉が生まれました。

〒104-0061
東京都中央区銀座8-9 長崎センタービル1F
03-3572-6160
営業時間平日、土曜日AM8:00~PM10:30
日曜日PM12:00~PM8:00

